

保護者 様

東彼杵町立彼杵小学校 校長 白水 聡

令和4年度 東彼杵町立彼杵小学校 「学校評価」について(お知らせ)

立春の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、標記に係り、学校評価アンケートを実施・集計した結果をもとに本校職員による自己評価を実施しましたので、その結果を報告いたします。評価は高い方から順にA、B、C、Dの4段階としております。
今後とも、本校教育に御理解・御支援の程、よろしくお願いいたします。

長期	中期目標	短期目標	具体目標	担当	達成状況	評価
思いやりのある子	相手を思いやり、彼杵を愛する子	特別支援教育の充実 (児童の姿)	・お互いをよく知り、認め合う。	心を育てる部	・学級の中でお互いのよさを認め合う取り組みがなされている。 ・人権週間では、人権担当の職員が各クラスに入り、授業を行った。また、運営委員会を中心に学校スローガンや人権宣言を決める取り組みも行うことができた。	B
		基本的な生活習慣 (児童の姿)	・気持ちの良いあいさつや返事、受け答えをする。		・今年度は「ワンストップ挨拶」を重点的に取り組んできたが、まだ個人差が大きい。教師側も手本を示していくことを再認識して、取り組んでいく必要があると感じる。	C
		体験活動の充実(交流) (児童の姿)	・様々な体験を通して、地域の人や異学年の人と、思いやりの心を持って、折り合いをつけたり、協力したりして交流する。		・コロナ禍ではあったが、各学年GT等を招き、様々な話を聞くことができた。	B
		特別活動の充実 (児童の姿)	・集会等の企画・運営に自ら進んで参加し、自分なりに思いや願いを持って活動をする。		・運動会や縦割り活動、委員会、クラブなど様々な形態を工夫して異学年交流ができたが、高学年児童の自主的な行動力についてはまだ課題があり、個人差が大きい。	B
進んで学ぶ子	確かな学力を身に付けた子	基礎基本の定着 (児童の姿)	・標準学力調査の基礎問題において、全国平均正答率以上を目指す。	学びを高める部	・ベネッセの学力テスト(12月実施)の結果は、国語では1年(+4)・2年(+1)・5年(+1)・6年(+3)、算数では1年(+7)・4年(±0)が全国平均以上であった。	B
		思考力・判断力・表現力の育成(児童の姿)	・学期末まとめテストで8割以上を目指す。		・全学年において8割以上が達成できている。特に少人数指導やTTによる学習体制をとっている算数科の学習においては、日々の取り組みが一定の学習効果を上げている。	A
		読解力の向上	・年間100冊以上の本を読む。		・学校では多くの子どもが本を読んでおり、年間貸出冊数100冊以上達成者は130名で、全体の5割となっている(2月17日現在)。現在の貸出冊数が90冊以上の子どもが多いため、3月の年度末までに8割の達成が見込める。	A
		(児童の姿)	・新聞に親しみ、読む子どもを増やす		・NIE教育のなごりで各階廊下等に各社新聞並びに子ども新聞を掲示し、常に子どもたちが新聞に目を通す機会を設けることができた。子どもは休み時間やちょっとした時間を見つけて、掲示された新聞をよく読んでいる。このことも読解力向上へと結びついている。	B

長期	中期目標	短期目標	具体目標	担当	達成状況	評価
進んで学ぶ子	確かな学力を身に付けた子	ICTの活用 (児童の姿)	・学年に応じた技能の向上 3年…ローマ字入力ができる 4年…IN検索ができる 5年…タブレットを使いこなす 6年…プレゼンができる	学びを高める部	・一人一台のタブレット配布、指導により、ICTの技能は学年に応じた目標以上のレベルである。	A
		家庭学習の習慣化 (児童の姿)	・家庭学習に毎日取り組む。 (低学年30分～1時間、中学年1時間～1時間半 高学年1時間半～2時間)		・漢字検定やベネッセ学力テストの練習のための課題を家庭学習に出すことや、家庭での学習環境を整えてもらうための啓発により、学習内容に関心をもつ子が増え、家庭学習の習慣化ができている。	A
しんぼう強くがんばる子	体力づくりに努め、最後までやりぬく子	体力の向上 (児童の姿)	・体育の授業に積極的に取り組ませ、体力の向上を目指す。	健康をつくる部	・体育の授業では、持久力を高めるために、持久走や縄跳びなどの運動を準備運動で行った。また、今年はマラソン大会も実施することができた。	B
		清潔で安全な学校づくり (児童の姿)	・「だいすきさ」の合言葉で掃除に取り組む。		・楽しく遊びながら体力を高めるために、鉄棒カードやストラックアウトなど遊べる場を作っている。また、職員間で、体力を高めるための運動遊びなど情報共有を行った。	
		健康教育の推進【児童の意識改革】 (児童の姿)	・安全面に気を付けて、ケガのない生活を送る。		・給食の際に、掃除の約束について放送していただいていることもあり、子どもたちは、「だいすきさ」の合言葉で掃除を頑張っている。	B
			・好き嫌いなく食べ、給食残量ゼロを目指す。		・昨年より、スポーツ振興センターの適応件数が、10件以上少なかった。	A
					基本的に、給食の残量ゼロを目指して指導しているが、コロナの影響で休みが多いと、残量ゼロは厳しくなる。	A
信頼される学校	校を指導力を高め、家庭・地域とともにある学校	教職員の資質の向上 (教師・学校の姿)	・楽しく分かる授業に努める。	教頭	・国語科・算数科を中心とした授業研究に全職員が関わった。計画的に研究授業を実践できたことは大きい。ただ、令和3年度よりは研究授業実施時期が集中しないようにできたが、まだあと少し配慮が必要であった。 ・GTの効果的な活用は、児童に感動体験を味わわせる学習展開となった。	B
		家庭・地域との連携 (教師・学校の姿)	・教育活動において、PTAや学校運営協議会と協働する。		・新型コロナウィする感染症対策に対する保護者の理解と協力に支えられた。 ・GTを招き、ふるさと教育を推進することができた。 ・学校運営協議会との協働を図り、芝刈りや朝の集団登校などで児童の安全確保に尽力いただいた。	B
		組織力の強化 (教師・学校の姿)	・報告・連絡・相談に努め、各種委員会等チームで動く。		・ベテラン教師の経験と若手教師の機動力を生かした業務の推進が図れた。 ・組織的対応に心がけ、必要な情報は共有し合い、地域や保護者・児童に対しても多角的な視野に立って対応できるようにした。	B
		施設・設備等学校環境の整備	・教職員と連携を図りながら、児童が安全に学校生活を送ることができるような環境整備に努める。	事務	今年度から新たに、用務員さんを配置していただいたおかげで、これまで予算の都合で対応が厳しかった、軽微な修繕を積極的にやっていただき、環境保全が向上した。	B